

血液・腫瘍性疾患の検査・治療のため腰椎穿刺を受けられた 患者さんの診療情報を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者	所属	血液・腫瘍内科	職名	科長
	氏名	長谷川 大一郎		
	連絡先電話番号	078-945-7300		
実務責任者	所属	血液・腫瘍内科	職名	医長
	氏名	岸本 健治		
	連絡先電話番号	078-945-7300		

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、上記実務責任者（岸本健治）までご連絡をお願いいたします。

1 対象となる方

2017年1月1日より2017年12月31日までの間に、血液・腫瘍性疾患の検査・治療のために兵庫県立こども病院にて腰椎穿刺（髄液検査）を受けた方

2 研究課題名

小児血液・腫瘍性疾患患者における atraumatic needle を用いた腰椎穿刺の合併症の検討

3 研究実施機関

兵庫県立こども病院 血液・腫瘍内科

4 本研究の意義、目的、方法

病気の診断や検査のために髄液と呼ばれる液体を採取する際、また治療のために薬剤を脳脊髄腔へ注入する際に、「腰椎穿刺」と呼ばれる処置を行います。腰椎穿刺では、患者さんの背中側から背骨（脊椎骨）の隙間へ針を進め、針の先端を脳脊髄腔へ到達させます。腰椎穿刺後には頭痛を始めとする合併症がしばしば生じることが知られています。近年「atraumatic needle」と呼ばれる特殊な先端構造を持つ針を使用すると腰椎穿刺後の合併症が少なくなることが報告されています。しかし現在 atraumatic needle の普及率は高くなく、小児患者を対象とした atraumatic needle の報告は多くあ

りません。当院血液・腫瘍内科では、処置に伴う患者さんの苦痛を緩和するために、腰椎穿刺では atraumatic needle を標準的に使用しています。本研究は過去の診療記録を基に、血液・腫瘍性疾患の検査・治療のために腰椎穿刺を受けた方の情報を収集して行います。本研究を通して小児における atraumatic needle を用いた腰椎穿刺の合併症の発症状況が明らかになり、将来処置を受ける患者さんの苦痛の緩和につながる有用な情報が得られると期待されます。

5 協力をお願いする内容

対象となる方の診療録（カルテ）を閲覧させていただきます。

6 本研究の実施期間

西暦 2018 年 7 月 1 日～2018 年 10 月 31 日

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切開示いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

実務責任者

兵庫県立こども病院

血液・腫瘍内科 医長 岸本 健治

連絡先電話番号 078-945-7300

以上